



2002
「アジア太平洋障害者の十年」
最終年

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2002 **5** No.606

発行日 2002年（平成14年）5月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/
編集発行人 清水勝夫
定価 80円（郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「痒い所に手の届く介護を」伊藤順一さんが「メルスリー鎌倉」を立ち上げたのは3年前。「メルスリー」は伝説の「こまもの屋」さん。その名の通り、日常の介護支援はもちろん旅行の要望にも応え、観光地のトイレや旅館の対応状況等を自分の足で調べ、その方に合った計画をお薦めする。より快適にと、昨年寄贈された小型バスも会員や友人の協力を得て自分で改造した。会の運営は決して楽ではないが、「私たちが必要としている方のお手伝いをしっかりやって行く事が先決です」と語る。（写真・文 菊地信夫）



高校時代の友人が自宅の玄関先で、通りすぎる人たちをのんびりと眺めていました。
その姿は定年後の人生にゆとりをもっているようでもあり、少し寂しそうな感じも受けたので、声をかけてみると意外な言葉が返ってきました。

定年退職してほどない頃は、早く起きて会社に行くこともなく、すべてが自分の自由な時間だと思つくと、これから老後の人生がバラ色に思えて嬉しかった。朝食のときに好きな酒を少し飲んでもよかつたし、眠くなればいつでも横になれる。贅沢をしなければ年金生活も楽しいものだと思つたそうです。

でも一年を過ぎた頃から、日常生活が少しずつ変わり始めた感じがして、何をするにも億劫になり、近所の人と出会うともなるべく顔を会わせないようにしたり、何事にも消極的になり、元気な頃の自分を見失つてきたというのです。彼は定年後の考え方で、生活のペースを大きく変えてしまったようです。

もう一度地域の中で、同じような悩みを持つ仲間が、元気な時の自分を見つめ直しながら活動できる「いきいきサロン」を作りたいものです。

県民生委員児童委員協議会
広報委員長 鈴木立也

目次……………CONTENTS

- ともしび運動推進に向け新体制スタート……………2・3
- DV被害者支援活動の広がりを目指して……………4
- 聴覚障害者に優しい街は自分たちの手で……………4
- 福祉医療施設のMSWたちは今……………6
- 預金者の思いを乗せロッキ号は走ります……………6
- 連載・企業の姿勢から学ぶもの(2)……………8・9